



平成27年度安曇野検定準備講座

堀金、下堀地区

平成27年10月7日
安曇野市堀金・下堀地区

下堀について

下堀地区は安曇野市の中央部にあって、烏川右岸扇状地に広がる地域の一角をなしています。

集落の中心を拾ヶ堰が流れる同地区は、東の万水川付近までをエリアとし、広い範囲に水田が広がっています。天正4年(1576)に堀金郷より分村したのが下堀金村で、その西側で東西に長い扇町地区は下堀金の枝郷として開墾された土地でした。現在の扇町は岩原方面へ続く旧街道沿いの集落が屋敷林の連なる優れた街路景観を創出しています。

中世からの市場道である千国道は安曇野一帯で幾筋も南北に走っていますが、三郷・一日市場～中萱方面からの千国道と、西方の小田多井～上堀方面から来る千国道が合流して穂高方面に向かって北上するのがこの下堀集落で、同地が古くから地域交通の要の位置にあったことを伺うことができます。

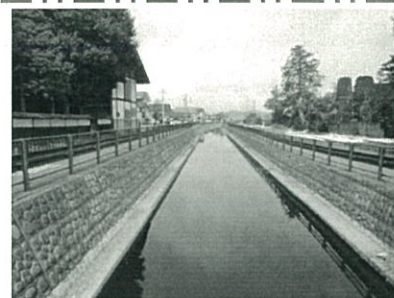
現在、旧堀金村地域に在る9区のうち下堀区は世帯数において最大で、地区を南北に縦断する広域農道沿いの大型ショッピングセンターや烏川工業団地の整備などによって、堀金エリアのみならず安曇野市内でも有数の商工業中心地のひとつとなっています。

1. 拾ヶ堰

安曇野随一の知名度と規模を誇る用水・拾ヶ堰。

文化13年(1816)に通水したこの堰は奈良井川より取水し、梓川の河床を潜り、烏川に合流するまでの距離およそ15km。標高570mの等高線に沿った流れは高低差わずか5mで、江戸時代の土木技術でわずか3ヶ月の工期で完成させたという画期的事業でした。

現代の灌漑面積は約1000haとされる拾ヶ堰ですが、拾ヶ堰開削によって下堀村の従来の灌漑に余水が生じたことで扇町の開田が進んだ例などもあり、その波及効果は実質面積を上回っていたとも考えられます。



2. 田屋の道祖神



下堀地区の南端・田屋集会所前の辻に立つ道祖神。庚申塔・天満宮とともに立派な石積みの基壇の上に祀られています。



道祖神
文政12年
(1829)



庚申塔



天満宮

3. 神明宮跡
田屋地区の段丘下に立つ神明宮跡を示す標柱。



5. 道祖神

嘉永2年(1849)建立。旧堀金村域では唯一の個人建立の道祖神だそうです。



4. 河岸段丘と屋敷林の小路

今回コースの東側エリアは河岸段丘となっており、段丘に沿って堰が南から北に向かって流れています。

段丘上には立派な屋敷林が緑豊かな集落景観を作り出しています。西に下堀集落越しに常念岳を望めるほか、東を向いては豊科の市街地方面が一望でき、新田神社の鎮守の森を見ることが出来ます。



6. 十郎右衛門屋敷と烏川北道

巾上の河岸段丘上にひととき大きな本棟造の屋敷と立派な屋敷林で構成された一角があります。現在見られる下堀金の村落景観の形成に深く関与したと考えられている堀金氏に繋がる有力家臣の屋敷(館)跡の場所であったとされています。



(上) 屋敷の北側、河岸段丘上から屋敷方面



(上) 屋敷の北側に流れる水路はかつての堀跡(?)

(左) 画像は十郎右衛門屋敷南側を抜ける里道で、明治23年の地図には「烏川北山道」と記されています。豊科の新田方面より烏川入会山へ向かうための道で、下堀の集落を抜け、扇町集落の南側を通過して西へと伸びていました。

7. 下村の道祖神

天保12年(1841)建立。下村集会所前に立つ、ワイルドな文字の道祖神。おむすびのような石を用い、「道」の字を上、「祖神」をその下で左右に配したユニークな描き方をしています。



8. 板塀のある集落景観

北村と下村の道祖神を結ぶ街路は古民家や古い土蔵が立ち並び、屋敷林や板塀などと程よい調和が取り、常念岳や白馬の山並みを背景にしたのどかな安曇野の集落景観が楽しめます。



9. 北村の道祖神と津島様

拾ヶ堰にかかる橋のもと、巾3.5mの大きな基壇があり、石碑が並んで立っています。そのうち右端の石造物の上部に小さな木の祠があるのは津島様(津島神社)。古い記録によれば、かつては「秋葉様」であったものが、昭和初期に現在の津島様に転じたとされています。

津島信仰の祭神は牛頭天王であり、穢れを祓う神様とされているため、下堀堰や拾ヶ堰に穢れを流してくれる神様として変遷したのではとも考えられています。



道祖神(文字碑)
建立年がはっきりしませんが、文字が勢よく描かれていて独特の雰囲気を感じさせます。



津島様



天満宮



庚申塔(青面金剛像)



休憩ポイント
下堀公園
拾ヶ堰沿いに整備された公園。諏訪神社にも近く、集落内にありながら明るく開けた場所で、のんびり過ごすのに最適です。

10. 諏訪神社

下堀の産土神。

創建年代不詳で、かつて扇町にはべつに産土神社として諏訪社が存在しましたが、明治後期に出された神社合祀令により、明治41年に同社に合祀されることとなりました。

平面形が珍しい三角形となっている社叢は松や檜などが林立し、社殿の配されている場所以外では、マレットゴルフ場として活用されるなどしています。

境内には本殿ほか多くの摂社が覆い屋に守られて存在するほか、拝殿内に市の有形文化財に指定されている御神鏡などが整っており、4月の祭典で挽き回される屋台の保存なども含め、氏子さんたちの同社を大切に守り続けてきた思いが伝わってきます。



本殿

一間社流造に軒唐破風と千鳥破風が組み合わさっています。大隅流。



拝殿

内部正面に文化財の御神鏡。



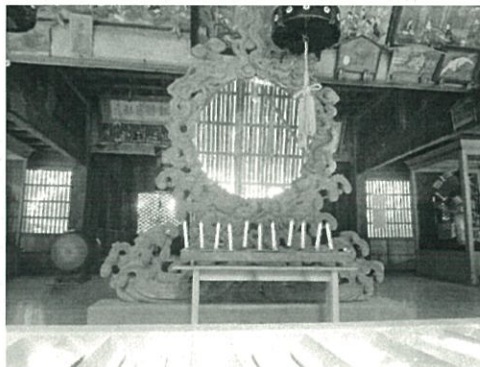
鳥居の扁額

揮毫は宮内大臣(当時)の渡邊千秋(伯爵)。



神明社

かつて下堀村南部の田屋に鎮座していた神明宮を移転、境内合祀しました。



御神鏡

制作年：明治31年(1898)。

作者：諏訪立川流の彫刻師清水虎吉。

高さ185cm、幅180cmのケヤキを材とした非常に大型の神鏡。虎吉は他に穂高有明山神社祐明門を手がけるなど、多数の作品を生み出しています。

(安曇野市有形文化財指定)



千度石
← 拝殿脇



千度石
拝殿正面→

狛犬



岡崎古代型と呼ばれる様式で、愛知県岡崎市の石工による作品。国重文指定になっている滋賀県の大宝神社の狛犬がモデルになっており、昭和初期には招魂社系狛犬のひとつとして、国威発揚がさけられるなか全国各地の神社で多数の同型狛犬が奉獻されました。



社務所

大正4年建築。

「紀元二千六百年記念」
昭和15年(1940)建立。
石匠・岡崎市中町 杉浦磯治郎。

境内西側の鳥居

扇町側より訪ねると、この鳥居をくぐって境内へ入ることになります。



ご神木

境内西端の覆い屋に守られたご神木の切り株。樹齢280年余の三本の幹に分かれた松の巨木でしたが、枯れによる倒木の危険が高まったため昭和50年に切り倒されました。

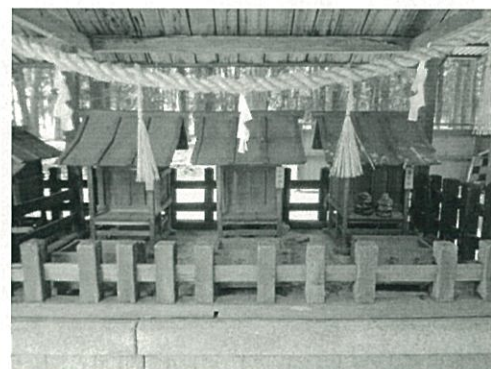


道路標

豊科、温などの地名が読み取れます。



神楽殿



摂社(神楽殿脇)

覆い屋に祀られています。

(左から)八王子社、琴比羅社、戸隠社、秋葉社、荒神社、水神社、菅原社。



多賀神社と夫婦松伝説

本殿東側に鎮座。祠脇に立つご神木の2本の松がねじれながら交わっている様子を仲睦まじい夫婦に見立て、同社にお参りすると必ず子が授かるという伝承につながる民話が作られるなどしましたが、残念ながら2本とも伐採されてしまいました。

マレットゴルフ場

広々とした境内の有効活用です。



天神宮



天満宮



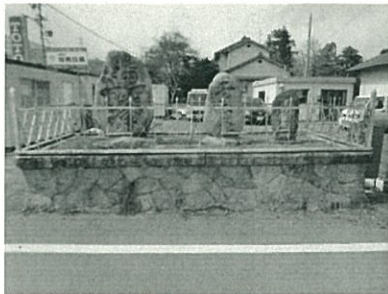
御嶽座王大権現

石碑の境内社(鳥居脇)

覆い屋に祀られています。

11. 中村の道祖神と石造物

大きな基壇の上、鉄柵に囲まれるかたちで道祖神、二十三夜塔、庚申像(青面金剛)が祀られています。道祖神は文字碑で下村同様に大胆な筆遣いになっており、高さ132cm幅100cmは、旧堀金村域に存在する文字碑道祖神では最大の大きさです。



道祖神(文字碑)
天保9年(1838)戊戌正月吉日



二十三夜塔
文政6年(1823)



庚申像
元文2年(1737)

12. 庚申原墓地の馬頭観音群

墓地前の広場脇に巨大な馬頭観音塔ほか22基の馬頭観音塔(像)が祀られています。



馬頭観音碑
明治13年建立。



13. 第二拾ヶ堰土地改良区 開田記念碑

扇町や下堀西部など拾ヶ堰より標高の高い側が昭和37年に開田竣工・送水開始したのを記念して建立されました。



堰の辺に立つ、第二拾ヶ堰の取水ポンプ口の建物。

下堀の火の見やぐら
背丈は中規模ですが、広域農道沿いにあるためよく目立ちます。



広域農道沿いの店舗群

地域を縦断する広域農道沿いは大型スーパーをはじめ多くの店舗が揃い、曜日を問わず車の往来が賑やかです。

郷倉跡・下堀集成学校跡

現在の下堀公民館のある土地はかつて郷倉が在った場所で、また明治初期にはその郷倉を改装し、小倉淨心寺の庫裏を購入移転し校舎とした集成学校が置かれていました。開校は明治7年11月。のち明治8年には下堀学校と改称し、明治19年に村立堀金学校として統合されるまで地域の子供たちの学び舎となりました。



【下堀(扇町・川口)今回のコース外スポット】

今回訪ねたスポット以外にも、地域のお宝がたくさんあります。
ぜひ引き続いて地域の再発見を楽しんでみてください♪

川口観音堂
扇町西端に位置する川口集落は扇町・倉田・岩原の三地区からなっていて、その中に川口堂があります。その本尊は聖観音菩薩像。



扇町諏訪社跡

扇町集落の北、見晴らしの良い田んぼの中にかつて諏訪社のあったことを示す標柱が立っています。

天明霊神社

霊峰有明山を明治6年に開山し、のちに有明講を結成した天明行者を、その生家近くに建てられた霊社。社殿の奥側に石造の行者立像が祀られています。



川口の道祖神

川口堂と県道を挟んだ北側に組まれた屋形に二十三夜塔や庚申塔などと共に祀られています。

双体像碑は安曇野一円では一番大きいとも言われています。



扇町・中木戸の道祖神

屋形を組みあげた基壇に2体の道祖神。扇面に彫られた中に双体像があり、村名の「扇町中」の“扇”部分をこの扇面で表現するなど洒落たデザインになっています。上面には線彫りで松竹梅が施されている点も注目です。



双体像
天保14年(1843)建立。

扇町・上木戸の道祖神

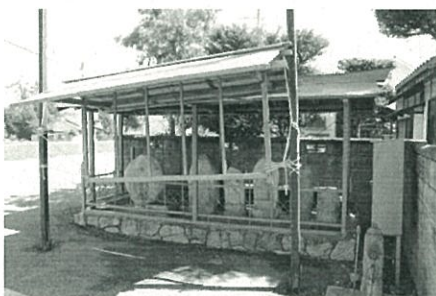
天保14年(1843)建立。堀金村誌によれば穂高の松下地区より盗まれてきた神様だそうです。



扇町・下木戸の道祖神
扇町集落東の辻に鎮座。顔を反らした女神の像容がユニークです。

田甫の道祖神

田甫集会所東側に鎮座。道祖神は「水」の崩し文字を記した鬼瓦をのせた唐破風型神殿に、菊花紋と菊葉を懸魚にあしらった造形の双体像です。旧堀金村域で最も古い巡礼碑の宝暦14年(1764)建立の「西東一百番供養塔」など、興味深い石造物がまっています。



下堀西交差点の道祖神

平成4年(1992)4月吉日建立。
烏川工業団地関連道路完成記念。

